

私も64歳を迎えようとしている。再任用を定年までにあと1年を残すばかりである。米子東高校定時制に勤務する私は、進路主事のA先生から相談を受けた。進路の担当する企画の中で「語りびと@勝田町」という企画があり、3人の講師を招いて生徒が聞きたいところに行って話を聞くという同じ枠で2パターンあるので2か所に行って話を聞けるのだ。その講師を選ぶにあたって、スポーツ関係・体育関係の講師をだれか知りませんか？私にはすぐにあてのある名前が浮かんだ。「矢野俊治」。。。。。

鳥取国体を3年後に控えた鳥取県に帰郷した際に覚えた名前である。1982年、昭和57年3月春休みを利用して米子から数名？(何名だったのか不明)が山林毅男氏に連れられて日本体育大学に合宿に来た。森岡尚美、矢野俊治、福山みどり、野口裕子、河津里香、八幡省吾、福田秀人？川口？。。。。まだ、いたかもしれないですが、名前を聞くと思い出す都合のいい安永です。

この前年昭和56年、米子にプールができた。(最初は飛込みプールだけ)そのこけら落としに日本体育大学の大坪敏郎先生と安永三郎、梅津寿文が呼ばれた。我々は演技を披露した。この飛込演技だと、国体でも5位ぐらいにはなるでしょうという大坪先生のアナウンスで気をよくしたのか、その年の滋賀国体は6位に入った。

何年か前から「鳥取だらプロレス」に入って、山陰のチャンピオンになっているということは知っていた。ふとテレビを見ていたらそこに映っているじゃないですか。

私はすぐに矢野君に電話して事の次第を話した。最初渋っていたような感じの声の張りも次第にイメージがわくにつれて明るさを増していった。45分一人で喋るとするのは厳しいということでもう一人連れてくるという「山口謙吾」である。矢野君の一つ下で当時プロレス好きであるということは知ってはいたが、どうせ遊びなのだろうと思っていた。山口謙吾、群馬国体高飛び込み9位であった。しかし、鳥取国体の前に突然やめてしまった。今回の出会いで40年ぶりの再会である。高校3年時の学校祭を楽しみにしていた矢野君は今年も国体選ばれて参加するに至った。

45分の中の前半は山口君、後半は矢野君という持ち時間であった。

2人ともしっかりとした職業を持っている。普通の社会人である。でも2人の瞳の中にはきらきら光るものがある。そうだ、プロレスだ。彼らの夢であろうプロレス。あきらめるに諦めきれないプロレス。そんなプロレスを自らのライフワークに入れて頑張っている彼らをこれからも応援したいと思っている。

そんな、矢野君がSNSをしてきた。

今日は謙吾とのタッグで定時制の生徒さんと講演という試合をしてきました。序盤は謙吾が好きなことは、徹底して追求していこうという話をプロレスを交えて、後半は転職経験3回の道場長が人生は選択の連続、人が繋ぐ縁みたいなものをエピソードを交えてお話ししてき

ました。

二人の話の共通点は「道」

選択を迫られたときには、先を心配しすぎないで周りの人の意見に耳を傾け、今持っている知識や経験を総動員してその時点でのベストだと思う選択をして
一歩踏み出せばその一歩が道となり、新たな世界が待っている
迷わず行けよ！行けばわかるさ！

こんなおっさんのつたない話を10人以上の生徒さんが選択してくれました。
ありがとう！何か感じ取ってくれたり今後の参考になれば幸いです。

そして、最後にはアントニオ猪木の「道」で締めくくられていた。

この道を行けば どうなるものか

危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし

踏み出せば その一歩が道となり その一歩が道となる

迷わず行けよ 行けばわかるさ

アントニオ猪木

今後、飛込みの現場に遊びに来てくださいと、コーチからメールがあったらしい。

私も、これから飛込みとプロレスのコラボなるものをやってはいけないかと思案している。
そういえば、小さいとき私の夢もプロレスだった。